



伊能忠敬の肖像画（重要文化財・伊能忠敬記念館蔵）

刊行のことば

二〇〇一年にアメリカ議会図書館で二〇七枚もの伊能大図の模写図を発見したことが契機となり、二〇〇四年には「アメリカ伊能大図展」が開催された。これを受けて、河出書房新社から刊行された『伊能大図総覧』（二〇〇六年）は、三十八万円、限定三〇〇部という豪華本だったにもかかわらず、刊行日には完売という望外の成功に終わった。

その後、国内外の優良な大中小の伊能図を集め、アメリカ大図には彩色を追加して再現し、原寸大の伊能図をつなぎ合わせた巨大な「大日本沿海輿地全図」を、全国各地で巡回展示することができた。

この「完全復元伊能図フロア展」の地図データを整理して、手軽に閲覧できる方法はないかと考えたが、ついに本書『伊能図大全』として結実することとなった。扱いやすい判型で最も上質な伊能図のすべてが網羅された完全版がここに完成したことは、伊能図ファンのみならず、多くの歴史・地理・郷土愛好家にとっても喜ばしいことであるとともに、記念碑的な出版といえる。

二〇一八年は伊能忠敬没後二〇〇年の節目の年である。五五歳の老境で若者数名を従え、蝦夷地を目指して勇氣ある第一歩を踏み出した伊能忠敬の志を想い、二〇〇年前の日本の姿を一人でも多くの日本人に感じていただきたい。

伊能図とは何か

日本の近代地図の大ききげとされる伊能図は、伊能忠敬とその測量隊の長年の測量にもとづく全国の実測図である。海岸線と主要街道を骨格とし、記号や注記とともに、周囲の景観を絵画風に描く、彩色された手稿図である。

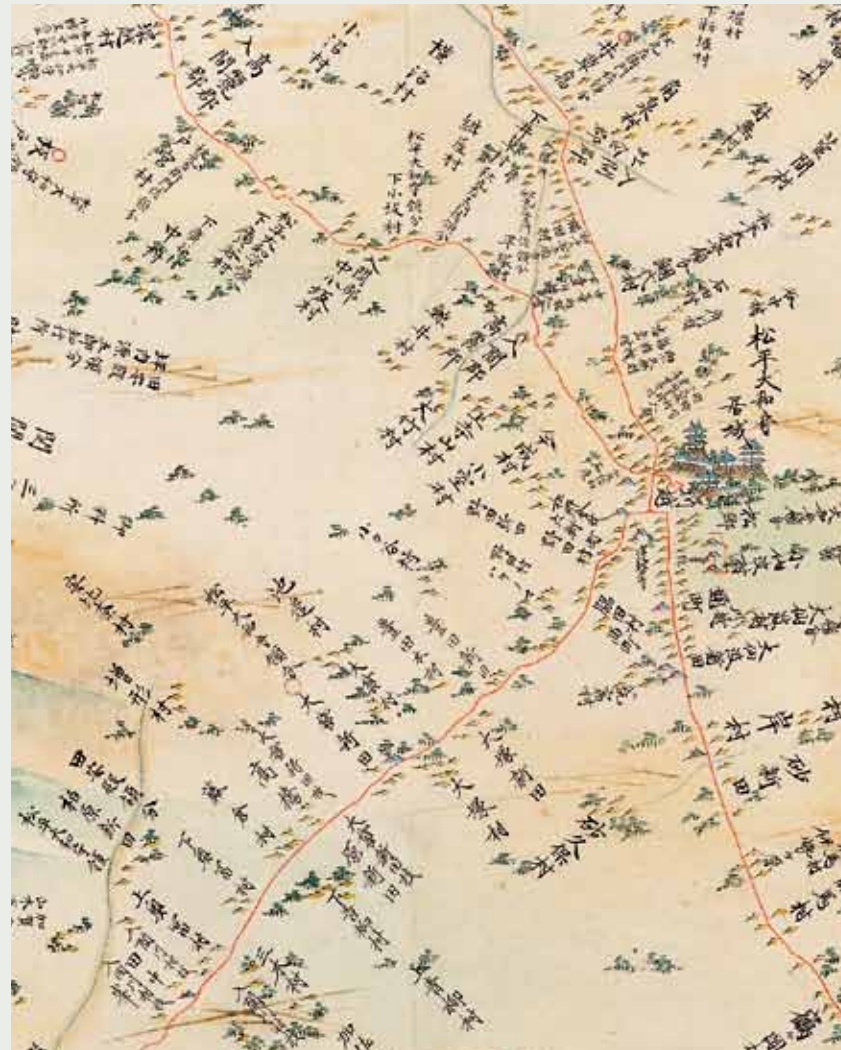
およそ二〇〇年前の江戸時代、あしかけ七、八〇年にわたって測量が行なわれ、その各段階で多くの地図が作られた。これらすべての地図を伊能図と総称するが、本書の収録図は、全ての測量結果を集成し、文政四（一八二二）年に上呈された「大日本沿海輿地全図」である。大図（三万六〇〇〇分の二、四、六）中図（二万六〇〇〇分の二、四、六）小図（一萬六〇〇〇分の二、四、六）の三枚で、別に大日本沿海実測録二四巻がある。大図は測量データから直接描かれた実測図、中図は大図を集成して編集されている。

伊能図は同時代の水準を超えた正確さで広く知られる。形状だけでなく、天文測量などによって位置の精度も追究したことで、近代地図の第一歩となった。記載内容の研究は端緒に着いたばかりで、一九世紀初頭のわが国の地誌を伝える記録として大きな可能性が期待できる。

地全国である。大図（三万六〇〇〇分の二、四、六）中図（二万六〇〇〇分の二、四、六）小図（一萬六〇〇〇分の二、四、六）の三枚で、別に大日本沿海実測録二四巻がある。大図は測量データから直接描かれた実測図、中図は大図を集成して編集されている。

伊能図は同時代の水準を超えた正確さで広く知られる。形状だけでなく、天文測量などによって位置の精度も追究したことで、近代地図の第一歩となった。記載内容の研究は端緒に着いたばかりで、一九世紀初頭のわが国の地誌を伝える記録として大きな可能性が期待できる。

鈴木純子 日本国際地図学会評議員 元国立国会図書館司書



大図 第88号 熊谷・浦和・川越（国立国会図書館蔵） 原寸

日本全国を初めて詳細に
実測した近代地図の集大成

奇跡の発見を重ねながら甦った
貴重な伊能図の全貌が明らかに

渡辺 二郎

伊能忠敬研究会 名誉代表

全7巻

河出書房新社

渡辺 二郎 監修

大図214枚／932頁
九州沿海図21枚／116頁
中図8枚／232頁
小図3枚／28頁

膨大な原図を鮮明なままコンパクトに！
文字を含む画像を鮮明に保ちながら、畳・畳を超える大きさの各原図を三〇〜四〇％に縮小したうえでA4判に分割し、地域別にコンパクトにまとめた。

郷土史研究だけでなく、現代にも役立つ基本文獻！
二〇〇年前の日本全国の地誌研究のための貴重な基本文獻であり、また地形や街道、地名、土地利用など、現代との比較において役立つ多くの情報を提供してくれる基礎史料。

充実した概説、各図解説、地名索引！
伊能図の全貌を概観した説明、全国幅の解説、地図に記載されたすべての文字を収録した膨大な地名索引。基本史料として貴重なデータ。

伊能図大全
全7巻(分売不可) 渡辺 二郎 監修
刊行記念予約特価 99,750円(税込)(本体95,000円)
予約申し込み特価期限2013年10月31日
以降の定価126,000円(税込)(本体120,000円)
2013年6月現在 消費税5%
刊行 2013年11月下旬



※装丁デザインは変更の可能性があります。

河出書房新社特約店

河出書房新社

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2
TEL 03-3404-1201 FAX 03-3404-0338
http://www.kawade.co.jp/

本書の特徴

目次

※総頁数は予定

【第1巻】
伊能大図 北海道・東北
原図71／図数183／総頁262

第1号 色丹島

第2号 国後島北部

第3号 国後島南部

第4号 羅臼

第5号 標津

第6号 根室

第7号 網走

第8号 常呂

第9号 紋別

第10号 枝幸

第11号 稚内

第12号 天塩

第13号 利尻・礼文

第14号 天売・焼尻

第15号 留萌

第16号 増毛

第17号 石狩

第18号 夕張岳

第19号 機丹

第20号 岩内

第21号 厚岸

第22号 釧路

第23号 十勝川河口

第24号 広尾

第25号 浦河

第26号 門別

第27号 苫小牧

第28号 室蘭

第29号 長万部

第30号 森

第31号 函館

第32号 瀬棚

第33号 江差

第34号 奥尻島

第35号 松前

第36号 渡島大島

第37号 鯉ヶ沢

第38号 青森

第39号 野辺地

第40号 弘前

第41号 八甲田山

第42号 八戸

第43号 久慈

第44号 宮古

第45号 釜石

第46号 盛岡

第47号 一関

第48号 仙台

第49号 白石

第50号 原町

第51号 いわき

第52号 福島

第53号 日立

第54号 鉾子

第55号 深浦

第56号 能代

第57号 森吉山

第58号 秋田

第59号 本荘・大曲

第60号 横手・湯沢

第61号 新庄

第62号

第63号

第64号

第65号

【第3巻】
伊能大図 近畿・中国・四国
原図61／図数171／総頁304

第117号 鳥羽

第118号 岐阜・大垣

第119号 白山

第120号 福井

第121号 敦賀・小浜

第122号 越前

第123号 富山

第124号 石川

第125号 彦根

第126号 金沢・加賀

第127号 福知山

第128号 和歌山

第129号 奈良

第130号 京都

第131号 大阪

第132号 神戸・明石

第133号 姫路

第134号 徳島

第135号 高松

第136号 小松島

第137号 室戸

第138号 安芸

第139号 倉吉・新見

第140号 倉敷

第141号 観音寺

第142号 福崎道後

第143号 福崎道前

第144号 松江・米子

第145号 松江・米子

第146号 松江・米子

第147号 松江・米子

第148号 松江・米子

第149号 松江・米子

第150号 松江・米子

第151号 松江・米子

第152号 松江・米子

第153号 松江・米子

第154号 松江・米子

第155号 松江・米子

第156号 松江・米子

第157号 松江・米子

第158号 松江・米子

第159号 松江・米子

第160号 松江・米子

第161号 松江・米子

第162号 松江・米子

第163号 松江・米子

第164号 松江・米子

第165号 松江・米子

第166号 松江・米子

第167号 松江・米子

第168号 松江・米子

第169号 松江・米子

第170号 松江・米子

第171号 松江・米子

第172号 松江・米子

第173号 松江・米子

第174号 松江・米子

第175号 松江・米子

第176号 松江・米子

第177号 松江・米子

第178号 松江・米子

第179号 松江・米子

第180号 松江・米子

第181号 松江・米子

第182号 松江・米子

第183号 松江・米子

第184号 松江・米子

第185号 松江・米子

第186号 松江・米子

第187号 松江・米子

第188号 松江・米子

第189号 松江・米子

第190号 松江・米子

第191号 松江・米子

第192号 松江・米子

第193号 松江・米子

第194号 松江・米子

第195号 松江・米子

第196号 松江・米子

第197号 松江・米子

第198号 松江・米子

第199号 松江・米子

第200号 松江・米子

第201号 松江・米子

第202号 松江・米子

第203号 松江・米子

第204号 松江・米子

第205号 松江・米子

第206号 松江・米子

第207号 松江・米子

第208号 松江・米子

第209号 松江・米子

第210号 松江・米子

第211号 松江・米子

第212号 松江・米子

第213号 松江・米子

第214号 松江・米子

第215号 松江・米子

第216号 松江・米子

第217号 松江・米子

第218号 松江・米子

第219号 松江・米子

第220号 松江・米子

第221号 松江・米子

第222号 松江・米子

第223号 松江・米子

第224号 松江・米子

第225号 松江・米子

第226号 松江・米子

第227号 松江・米子

第228号 松江・米子

第229号 松江・米子

第230号 松江・米子

第231号 松江・米子

第232号 松江・米子

第233号 松江・米子

第234号 松江・米子

第235号 松江・米子

第236号 松江・米子

第237号 松江・米子

第238号 松江・米子

第239号 松江・米子

第240号 松江・米子

第241号 松江・米子

第242号 松江・米子

第243号 松江・米子

第244号 松江・米子

第245号 松江・米子

第246号 松江・米子

第247号 松江・米子

第248号 松江・米子

第249号 松江・米子

第250号 松江・米子

第251号 松江・米子

第252号 松江・米子

第253号 松江・米子

第254号 松江・米子

第255号 松江・米子

第256号 松江・米子

第257号 松江・米子

第258号 松江・米子

第259号 松江・米子

第260号 松江・米子

第261号 松江・米子

第262号 松江・米子

第263号 松江・米子

第264号 松江・米子

第265号 松江・米子

第266号 松江・米子

第267号 松江・米子

第268号 松江・米子

第269号 松江・米子

第270号 松江・米子

第271号 松江・米子

第272号 松江・米子

第273号 松江・米子

第274号 松江・米子

第275号 松江・米子

第276号 松江・米子

第277号 松江・米子

第278号 松江・米子

第279号 松江・米子

第280号 松江・米子

第281号 松江・米子

第282号 松江・米子

第283号 松江・米子

第284号 松江・米子

第285号 松江・米子

発見の歴史

江戸幕府に献呈された伊能図の最終上呈図は、明治政府に引き継がれた後、明治六（一八七二）年の皇居火災で消失し、伊能家にあった控え図も東京帝国大学に保管された後、関東大震災で消失したと見られている。

皇居火災で失われたこの最終上呈図を正本といい、諸侯への献呈図などのように写図のための針穴が残っていて伊能測量隊による製作が確かなものを副本という。副本と同じだが未完成か完成度の低い図を稿本、江戸期に副本から手写されたものを写本、明治以降に写されたものを模写本とそれぞれ呼ぶ。

伊能大図で従来まで存在が明らかだったのは、長崎県平戸市にある松浦史料博物館所蔵の二図と山口県文書館所蔵の七図で、いずれも副本と見られる。これに国立歴史民俗博物館所蔵の秋岡コレクション六図の模写本を加えて、たった十数図にすぎなかった。

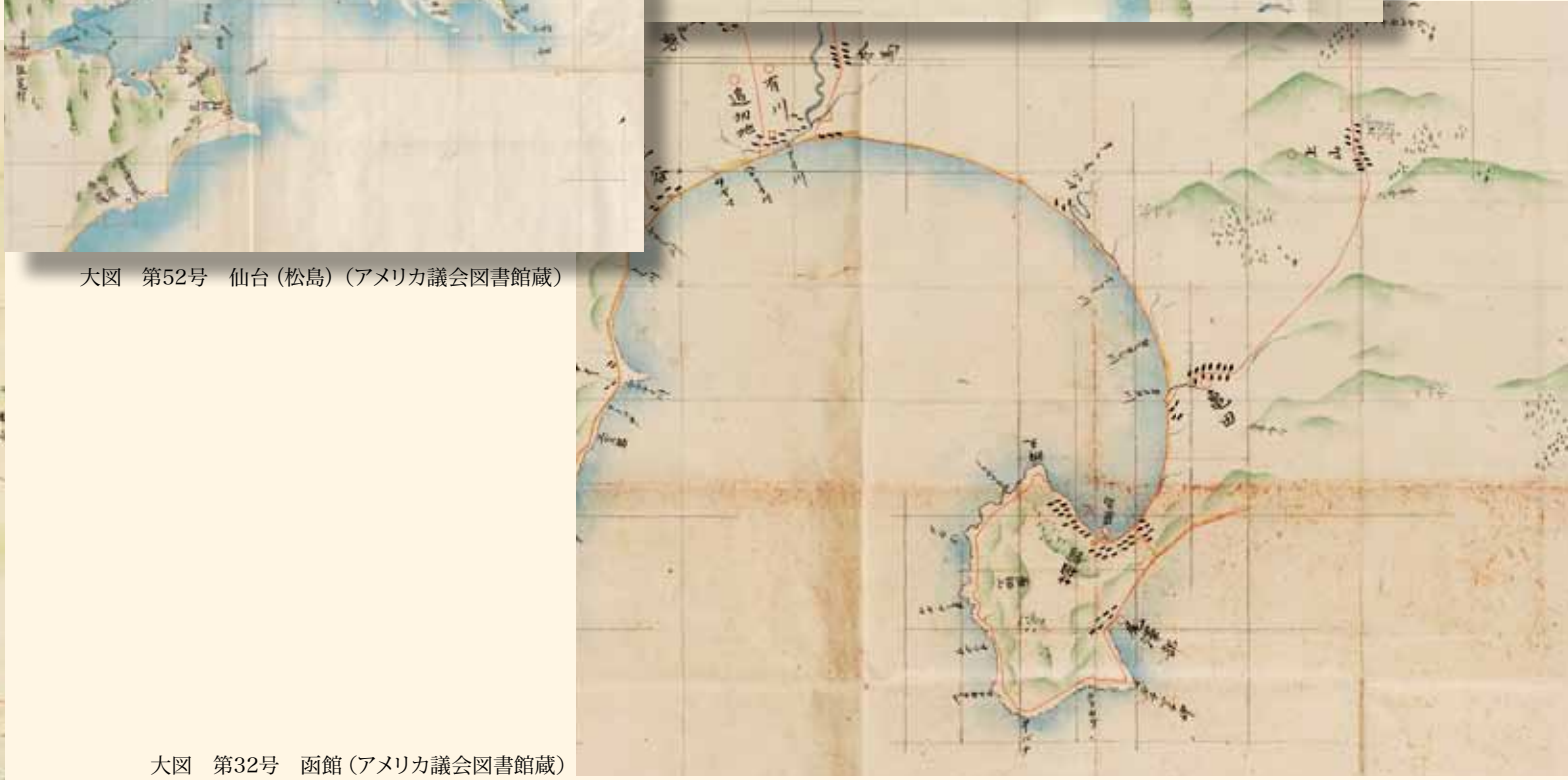
一九九七年、気象庁で偶然にも四三枚の貴重な大図模写本が発見され、国立国会図書館に移管された。そして二〇〇一年、ワシントンのアメリカ議会図書館で、拳に二〇七枚もの大図模写本が発見され、海上保安庁海洋情報部の明治期模写図四七枚のうちから四枚を補充して、大図二四図の全貌が初めて明らかになった。

中国は一九九五年に、パリ郊外の民家で良質な副本八枚揃いが発見確認された。現在、日本写真印刷所蔵。また小図は二〇〇二年、東京国立博物館で三枚揃いの早坂学園所旧蔵の副本が発見されている。

本書では現存する伊能図のなかで最も完成度の高い以上の図幅を収録している。



大図 第62号 秋田（アメリカ議会図書館蔵）



大図 第52号 仙台（松島）（アメリカ議会図書館蔵）

大図 第32号 函館（アメリカ議会図書館蔵）

何が描かれているのか

伊能測量は海岸線と主要街道が対象だったので、朱色の測量線（測線という）はおもこの両者を通っている。○次に及ぶ測量では最初に行なわれた蝦夷地、奥州や関東北部より江戸以西のほうが濃密である。蝦夷地については間宮林蔵の測量実績に依存しているといわれる。

大図は、町村名、社寺名、自然地名、国郡名のほか、城郭、村落、田畑、原野、山景などの沿道風景などが多色で美しく描かれ、宿駅、天文観測地点、港は記号で表記される。中国は、国郡界線、社寺などの記号が加わり、墨色の経緯線、遠隔目標へ伸びる朱色の方位線と方位が多数記入される。小図は中国の内容を簡素化している。これらの微細な記載も、貴重な歴史資料となっている。



大図 第93号 横浜・横須賀（国立国会図書館蔵）



大図 第90号 東京（国立国会図書館蔵）



大図 第135号 大阪（アメリカ議会図書館蔵）



中国 第4図 関東（日本写真印刷（株）蔵）



大図 第137図 神戸・明石（国立歴史民俗博物館蔵）

再現の彩色について

アメリカ議会図書館の伊能大図模写図（アメリカ大図）は、若干の着色図と大部分の無着色図から成っている。無着色図では、朱色の測線はあるが、海岸線と山岳の稜線などは墨線で描かれているだけで、着色がない。今回は現代の読者にとって視覚的な理解を容易にするために、多色で描かれていた最終版を想像できるように着色再現した図幅を収録した。具体的には、完成度の高い国立国会図書館蔵の模写図のような大図を参考にして、海や河川や湖沼など水系には淡い水色を、また山岳部には、墨線で描かれた稜線に沿って黄緑の彩色を施した。この作業には日本写真印刷株式会社の専門家が一年以上をかけた。アメリカ大図の原画自体（文字や線画）には、切の手を加えていない。

推薦

立川志の輔

落語家

岡本博

国土地理院院長

伊能図は、十九世紀初頭における我が国の測量技術の高さと国土の姿を知る貴重な記録であり文化財です。

西川治

東京大学名誉教授、元日本地理学会会長

森田喬

日本地理学会会長、放送大学教授

時空を飛翔できるのが地図の醍醐味。忠敬のおかげで二百年前、大・中・小図、現在を自在に跳躍できる。

今尾恵介

地理学者、日本旅行出版編集・企画監修

赤い線で精密に描かれた街道をたどれば、浮かび上がる二百年前の津々浦々。



九州沿海図 第20号 阿蘇（東京国立博物館蔵）



大図 第187号 福岡（アメリカ議会図書館蔵）